

明治二十五年拾月發刊

勸農一助

禁賣買

第一卷

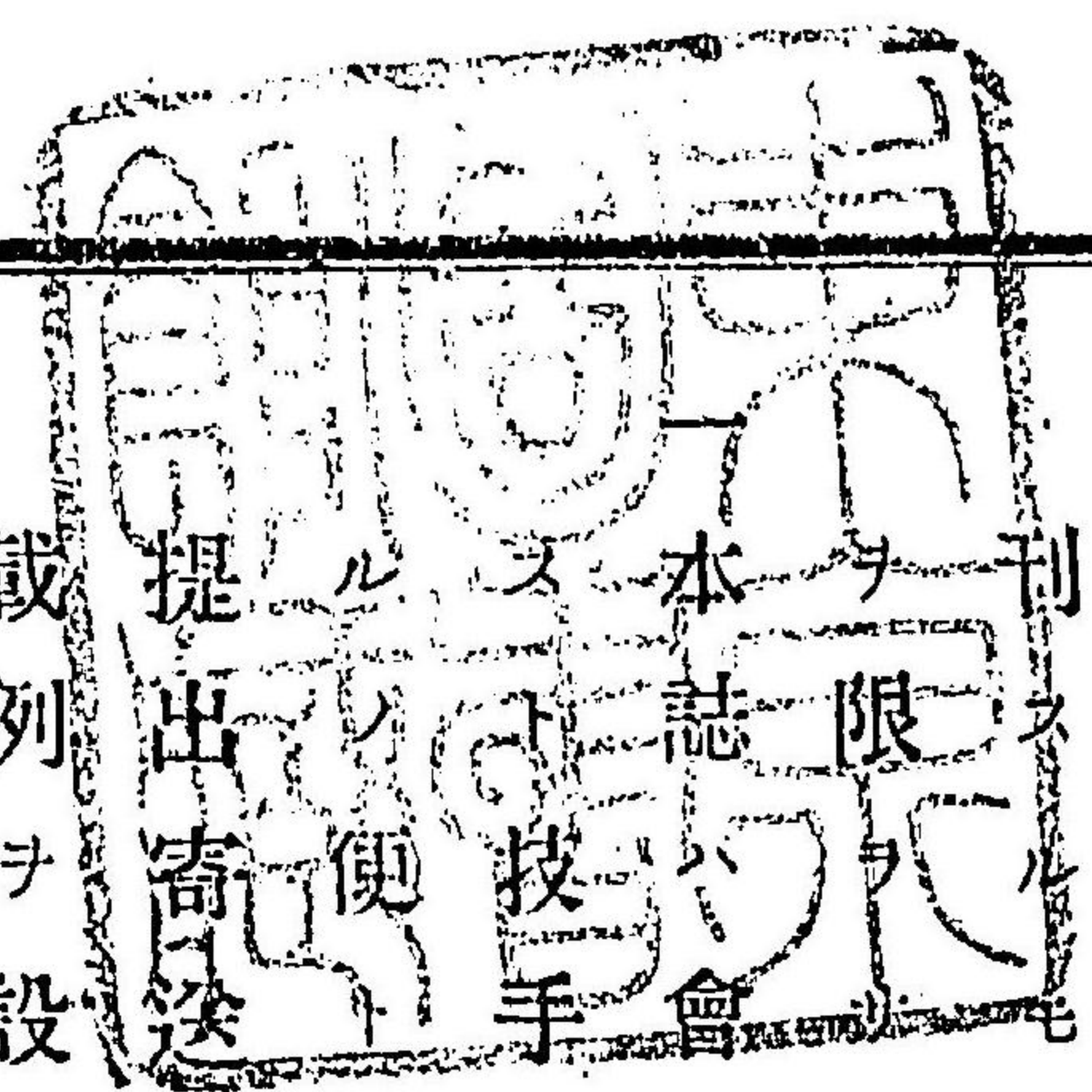
中魚沼郡有志農談會

新潟縣中魚沼郡有志農談會規則

第一條 本會ハ農談會ニシテ其ノ宗旨ハ農談會ノ宗旨ニ依リテ其ノ活動ニ努ムルコトニ在リ  
 第二條 本會ノ事務所ハ魚沼郡内ニ置ク  
 第三條 本會ノ役員ハ左ノ如シ  
 第四條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第五條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第六條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第七條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第八條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第九條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第十條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第十一條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第十二條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第十三條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第十四條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第十五條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第十六條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第十七條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第十八條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第十九條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第二十條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第二十一條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第二十二條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第二十三條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第二十四條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第二十五條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第二十六條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第二十七條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第二十八條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第二十九條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第三十條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第三十一條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第三十二條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第三十三條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第三十四條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第三十五條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第三十六條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第三十七條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第三十八條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第三十九條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第四十條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第四十一條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第四十二條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第四十三條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第四十四條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第四十五條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第四十六條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第四十七條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第四十八條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第四十九條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第五十條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第五十一條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第五十二條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第五十三條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第五十四條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第五十五條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第五十六條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第五十七條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第五十八條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第五十九條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第六十條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第六十一條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第六十二條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第六十三條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第六十四條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第六十五條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第六十六條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第六十七條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第六十八條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第六十九條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第七十條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第七十一條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第七十二條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第七十三條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第七十四條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第七十五條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第七十六條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第七十七條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第七十八條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第七十九條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第八十條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第八十一條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第八十二條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第八十三條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第八十四條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第八十五條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第八十六條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第八十七條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第八十八條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第八十九條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第九十條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第九十一條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第九十二條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第九十三條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第九十四條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第九十五條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第九十六條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第九十七條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第九十八條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第九十九條 本會ノ職員ハ左ノ如シ  
 第一百條 本會ノ職員ハ左ノ如シ

例言

一本誌ハ農業ニ實益アルモノヲ擇テ採  
 リ見聞ニ隨テ之ヲ録シ編チナスニ隨テ發  
 刊スルモノトス故ニ刊行ノ定日ト回数ト  
 本誌ハ會員諸氏ノ交話ニ代フルノ便ニ供  
 ス下技師老農等ノ講述談論ヲ聽聞ス  
 ルノ便ニ供セントスルモノナルカ故ニ  
 提出寄送ノ順ニ依テ掲載シ敢テ一定ノ記  
 載例ヲ設ケサルナリ  
 一本誌ハ本會ノ隆盛ニ赴クニ隨ハ体裁ヲ改



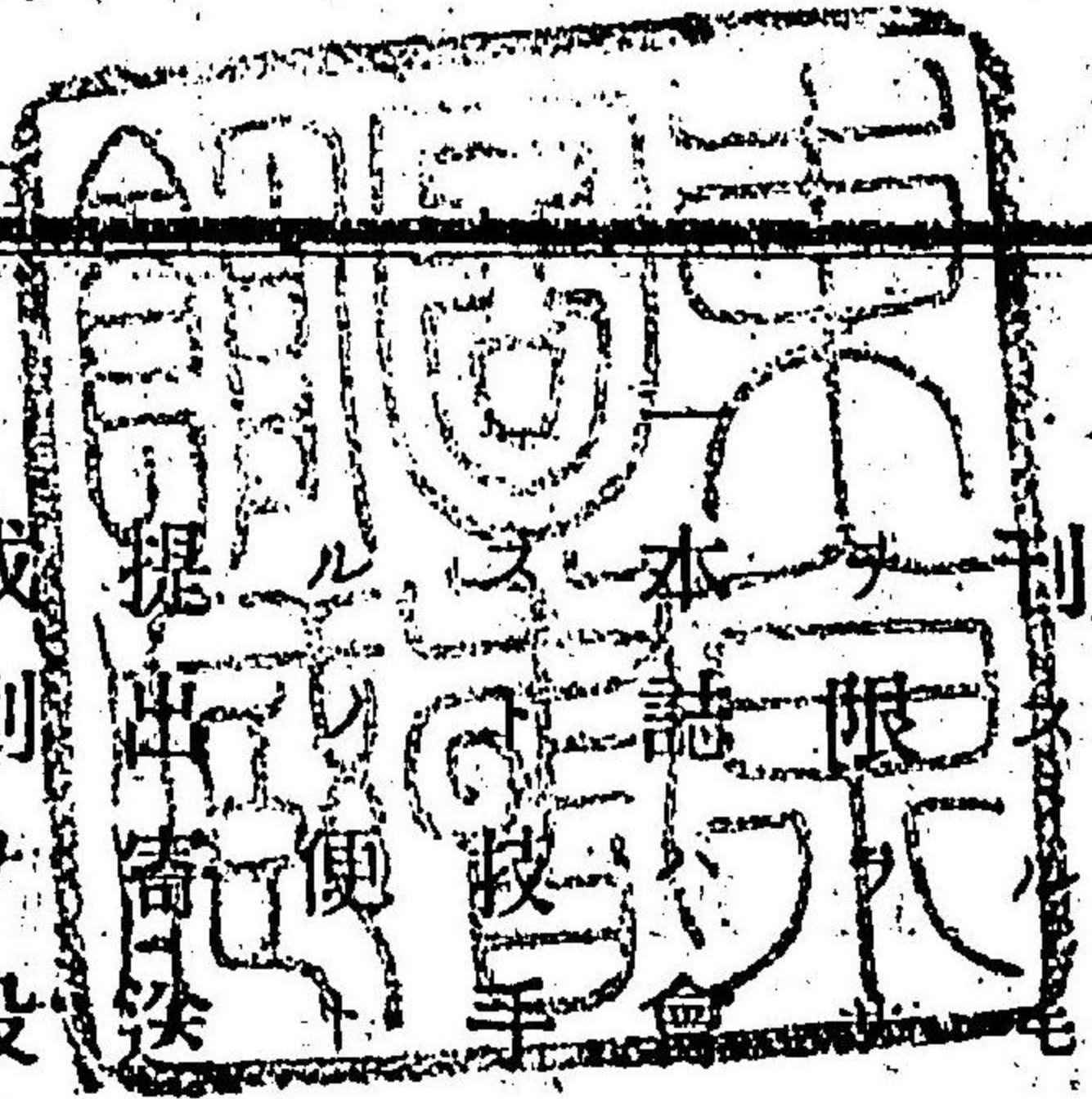
新編縣中魚沼郡有志農談會規則  
 第一章 總則  
 第一條 本會之目的在促進農談會之發達及普及農談會之組織  
 第二條 本會之組織以農談會為基礎  
 第三條 本會之組織以農談會為基礎  
 第四條 本會之組織以農談會為基礎  
 第五條 本會之組織以農談會為基礎  
 第六條 本會之組織以農談會為基礎  
 第七條 本會之組織以農談會為基礎  
 第八條 本會之組織以農談會為基礎  
 第九條 本會之組織以農談會為基礎  
 第十條 本會之組織以農談會為基礎  
 第十一條 本會之組織以農談會為基礎  
 第十二條 本會之組織以農談會為基礎  
 第十三條 本會之組織以農談會為基礎  
 第十四條 本會之組織以農談會為基礎  
 第十五條 本會之組織以農談會為基礎  
 第十六條 本會之組織以農談會為基礎  
 第十七條 本會之組織以農談會為基礎  
 第十八條 本會之組織以農談會為基礎  
 第十九條 本會之組織以農談會為基礎  
 第二十條 本會之組織以農談會為基礎  
 第二十一條 本會之組織以農談會為基礎  
 第二十二條 本會之組織以農談會為基礎  
 第二十三條 本會之組織以農談會為基礎  
 第二十四條 本會之組織以農談會為基礎  
 第二十五條 本會之組織以農談會為基礎  
 第二十六條 本會之組織以農談會為基礎  
 第二十七條 本會之組織以農談會為基礎  
 第二十八條 本會之組織以農談會為基礎  
 第二十九條 本會之組織以農談會為基礎  
 第三十條 本會之組織以農談會為基礎

第三十一條 本會之組織以農談會為基礎  
 第三十二條 本會之組織以農談會為基礎  
 第三十三條 本會之組織以農談會為基礎  
 第三十四條 本會之組織以農談會為基礎  
 第三十五條 本會之組織以農談會為基礎  
 第三十六條 本會之組織以農談會為基礎  
 第三十七條 本會之組織以農談會為基礎  
 第三十八條 本會之組織以農談會為基礎  
 第三十九條 本會之組織以農談會為基礎  
 第四十條 本會之組織以農談會為基礎  
 第四十一條 本會之組織以農談會為基礎  
 第四十二條 本會之組織以農談會為基礎  
 第四十三條 本會之組織以農談會為基礎  
 第四十四條 本會之組織以農談會為基礎  
 第四十五條 本會之組織以農談會為基礎  
 第四十六條 本會之組織以農談會為基礎  
 第四十七條 本會之組織以農談會為基礎  
 第四十八條 本會之組織以農談會為基礎  
 第四十九條 本會之組織以農談會為基礎  
 第五十條 本會之組織以農談會為基礎  
 第五十一條 本會之組織以農談會為基礎  
 第五十二條 本會之組織以農談會為基礎  
 第五十三條 本會之組織以農談會為基礎  
 第五十四條 本會之組織以農談會為基礎  
 第五十五條 本會之組織以農談會為基礎  
 第五十六條 本會之組織以農談會為基礎  
 第五十七條 本會之組織以農談會為基礎  
 第五十八條 本會之組織以農談會為基礎  
 第五十九條 本會之組織以農談會為基礎  
 第六十條 本會之組織以農談會為基礎

例言

一本誌ハ農業ニ實益アルモノヲ採  
 リ見聞ニ隨テ之ヲ錄シ編ヲナスニ  
 ノトス故ニ刊行ノ定日ト回数ト  
 ルナリ

一本誌ハ本會ノ隆盛ニ赴クニ隨ヘ体裁ヲ改  
 載例ヲ設ケサルナリ  
 提出ノ順ニ依テ掲載シ敢テ一定ノ記  
 員諸氏ノ交話ニ代フルノ便ニ供  
 技師老農等ノ講述談論ヲ聽聞ス  
 ニ供セントスルモノナルカ故ニ  
 本誌ハ農業ニ實益アルモノヲ採  
 リ見聞ニ隨テ之ヲ錄シ編ヲナスニ  
 ノトス故ニ刊行ノ定日ト回数ト  
 ルナリ



一方法ヲ設ケ爲ス所アラシトスル希望アリト雖モ先ツ實業卑近ノ利益アルモノヨリ之ヲ起シ漸次高尚遠大ノモノニ及ハシトスル精神ナリ

一本誌ハ每冊完備ノ讀切モノトシテ掲載シテ編輯追フノ錯雜ナカラシメシトス故ニ甚タ冗長ノモノニ及ハサルナリ

一本誌ハ會員諸氏及本會ニ關係アル諸氏ニ限り配付スルモノトス故ニ多ク餘部ヲ設ケサルナリ

本誌發刊

旨趣

本誌發刊ノ旨趣ハ本會毎歲一回乃至二回シ總會ヲ開クト雖モ開會日數限リテ毎會數百名ノ會員皆悉ク談話シ了スルニ至ラズ若シ町隣深切ヲ極ムル者アルニ至リテハ僅ニ數十名ノ演說ニ過ギズテ總員ノ半ニダモ至ラザルコアリ各蘊蓄スル所ノ美談空ク抱藏シテ解散スルヲ憾アリ且ツ本會ノ資金未ダ饒カナラズ他ノ技手技師老農等ヲ聘シテ聽聞スルノカラニ乏シ由之此雜誌ヲ發行シ廣ク世間ニ行ハル、諸雜誌等ニ就キ粹ヲ拔キ英ヲ摘ミ以テ之ヲ載セ會員諸氏及有志諸彦ノ寄書附掲ケ以テ會員一堂ニ

特51  
406

會スルガ如ク交話ノ便ト出會ノ勞費トヲ補ハントスルノ旨趣ニ在リ

## 希 望

儲本誌發刊ノ旨趣斯ノ如クニシテ編者ノ尤モ勉メントスル所ナリ然リ而シテ書ハ應用スルヲ以テ貴シトイフ而シテ若シ徒ラニ之ヲ讀過シ去リテ一ノ施ストコロナクンバ如何ニ會員諸氏勉テ貴重ノ談話ヲナシ奮フテ有益ノ講述ヲナスモ此書ハ則チ反故ト一般勞費ハ則チ徒費ノミ徒勞ノミ何ノ益カ寸毫之レアラムヤ由之希クハ本會々員諸氏銳意熱心書中擇ムベキハ之ヲ擇ヒ採ルヘキハ之ヲ採リ以テ之ヲ實地ニ試ミ應用ノ實アル所ヲ究メ實踐ノ空シカラサル所ヲ示シ以テ他ノ指導者トナリ以テ一般ニ之ヲ施

シ皆能ク其利ヲ收メ以テ各其家ヲ富マシ以テ斯道ノ開發ヲ謀リ以テ實業教育ノ端ヲモ開キ遂ニ富國強兵ノ一端ヲ補翼センコトヲ期スヘキナリ之レ此ニ至ラハ全ク本會ノ目的達スル所豈樂シカラシヤ

## 慰 問

此ノ如ク本會カ希望其目的ヲ達セントスルニ在リ是故ニ本會々員諸氏常ニ清福健全ニノ農務ニ黽勉シ怠ルコトナク荒ムコトナク朝ニ星ヲ戴テ出テ夕ニ月ヲ擔テ歸リ間アル片ハ農書ヲ緝キ學理ヲ攻メ繩ヲ索ミ蓑ヲ造リ其用意至ラサルナシ於是乎耕鋤ノ勞稍簡ニ入テ收穫ノ實益多キヲ致シ田圃整然米穀倉庫ニ滿テントスルノ光景アリ而シテ本年ノ如キ豐作ノ秋ニ逢フ豈雀躍抃舞慶賀セ

サルヘケンヤ嗟乎豐年萬作ヲ謳フ其聲ヤ樂シ矣本誌發刊ヲ唱フ其聲ヤ勇マシ矣會員萬歲本會雜誌ノ發刊萬歲千萬々歲萬々歲

## 祝 辭

本會今將ヨリ勸農一助テウ一雜誌ヲ發行セントス是時ヤ恰モ好シ籠手田新潟縣知事殖産興業ニ關シ縣内ノ大地主ヲ招集シテ懇篤演說アルニ遭遇セリ而シテ編者本書ノ發刊ヲ祝サントシ机ニ向ヒ筆未タ至ラズ心下躊躇ノ間知事演說ノ筆記ヲ得タリ何ノ幸カ之ニ加シ由之再三拜讀中ニ就テ農業ニ關シ肯綮ニ係リ焦眉ノ急ナルモノ一二之ヲ擇ビ之ヲ冒頭ニ掲テ以テ本誌發刊ノ開程トナシ併テ本誌ノ幸慶ヲ祝サントス

## 籠手田新潟縣知事演說

知事曰余巡回中二三ヶ所ニ於テ談話スル者アリ曰我縣ノ大地主ハ昔ノ大名ノ如キモノニシテ非常ニ勢アルモノナリ而シテ地方人民ヲ壓伏セシムルノ風アリ若シ如是風ヲシテ增長セシメタラシニハ益々人民ノ困弊ヲ來スベキ明カナリ云々ト如何ニモ大地主ヲ忌ミ嫌フモノ、如シ是レ蓋シ其源因ノアル有ラン然シナカラ余ノ意見トハ大ニ反スル者アリ如何トナレバ祖先若クハ各自カ粒々辛苦經營ノ末ヘ貯ヘタル財産ハ所謂勞力ノ報酬ニシテ他人ノ決シテ犯スベカラザル者ナリ且ツ國家ノ義務ヲ多ク負擔セル以上ハ權利モ隨テ多カル可キハ自然ノ理リナリ故ニ決シテ輕躁ニ流レヌ浮薄ニ陷ラス國家ノ爲メ公益ヲ計リ所在人民ノ標準ト

爲り骨子トナラサルヘカラス彼ノ社會黨カ財産平均論ヲ唱フル  
 カ如キハ真正ノ自由權ニ違反スル者ナリ我國ニハ幸ニシテ未ダ  
 スル論者ノアルヲ開カサレ臣宜ク注意シ天ノ未タ陰雨セサルニ  
 漏戸ヲ綯繆スルハ最モ必要ノ事ナリト信ス此故ニ地主タルモノ  
 ハ今ニ於テ宜ク小作人ヲシテ永ク其恩澤ニ浴セシメ苟モ離散ノ  
 心ヲ發セシメザル様勉ム可シ小作人アリテ地主アリテ  
 小作人アリ故ニ相互ニ和樂親愛シテ其業ヲ勵マサバ爾可カラヌ  
 是レ佛家ノ所謂一切衆生ノ恩ニシテ取りモ直サス是レ大地主ノ  
 家運ヲ永久ニシテ維持シ國益ヲ興スノ妙策タルヲ信スルナリ  
 大地主ノ方々ハ各屋敷ノ近傍ニ若干ノ田畑ヲ擇ミ之ヲ試驗地ニ  
 供シ一家ノ游園トナシ田ニハ則チ縣下ハ勿論各府縣ニ産スル早

稻中晩ノ種類ヲ集メ親シク之ヲ試作シテ何縣ノ何米ハ何々ノ肥  
 料ヲ用ヘ耕耘ノ方法ハ斯ク々々ナリト其實際ニ試作セシ實物ヲ  
 小作人ニ目撃セシメ小作人ノ選ム所ノモノヲ與ヘテ之ヲ試作セ  
 シメ其碩與モシ種ニヨリ得タル小作米ヲ納メタル片ハ乾燥調製  
 等十分審査ヲ爲シ善良ノ米穀ヲ納メタルモノニハ相當ノ褒賞ヲ  
 授ケ所謂利ヲ以テ導クノ法ヲ行フヲ以テ互ニ利益アルモノトス  
 兎ニ角小作人ヲ誘導勸化センニハ利益ヲ目前ニ示シ以テ其心服  
 セシムルヨリ捷徑ナルハナシ  
 又畑ニハ麥菽菜蔬桑茶有用ノ植物ヲ試作シ試驗ノ結果ニ徴シ其  
 有益ナルモノヲ小作人ニ分與シ從來畑作ノ利益ヨリモ多クノ収  
 益アルヲ努メ小作者ヲシテ感奮興起セシメ益々之ヲ鼓舞獎勵ス

ルニアラサレハ農業上ノ利益公期能ハサレモソト信セリ恐レ  
多クモ  
我皇后陛下ハ民業ヲ獎勵セラルハノ御心ヲ以テ曾テ植物御園及  
青山御所ニ於テ蚕業ヲ獎勵セラルハノ深キ大御心ノ程寔ニ感激  
ニ堪ヘサルナリ  
又佛國ノ第三世ナポレオンハ馬鈴薯ノ農作ニ利益アリテ且ツ滋  
養アル植物ナルヲ以テ農家ニ之ヲ耕作センコトヲ獎勵セシニ容易  
ニ之ヲ耕作スルモノナク或ハ却テ擯斥セシ者サヘアリテ全國ニ  
普チカラサルヲ以テ佛人ノ奇チ好ミ流行ニ狂奔スルノ風アルヲ  
察シ皇后ニ謀リシニ皇后ハ馬鈴薯ノ花ヲ採リテ簪ト爲シ行啓其  
他公衆ノ集ル場所ニ赴カセラルハ時ハ必ス此馬鈴薯ノ花簪ヲ插

サレタリシニ素ヨリ奇チ好メル佛國ノ婦人ノコサレハ巴里ハ勿  
論暫時ニシテ佛國中ノ婦人舉テ之ヲ用フルコトナリ之レカ爲メ  
ニ人民競フテ馬鈴薯ヲ作テ遂ニ其味ノ宜キト滋養分ノ多キトヲ  
覺ヘ漸次大ニ廣マリ今ハ佛國農民ノ常食トナレリ左レハ大地  
主ニ於テ農作物殊ニ米穀ノ改良増殖ヲ企圖シ自カラ之レカ主動  
者トナリテ一村或ハ一郡ノ農民ヲ鼓舞作興スルハ大地主タル者  
ノ常ニ努ムヘキ本義ナルヘシ今茲ニ米穀改良ニ關シ諸君ニ望ム  
ノ要點ヲ擧クレハ前三述ヘシ試驗場ヲ設置スルコト一郡中ノ大地  
主申合小作米品評會ヲ開設シ米穀ノ改良ヲ計リ兼テ小作者ヲ獎  
勵誘導スルコト一郡ノ品評會ハ既設ノ七郡品評會ト合シ全縣下品  
評會ヲ興シ以テ農民ノ競争心ヲ惹起シ農産物ノ振起發達センコ



トテ企圖セラレシ切望ニ堪ヘサルナリ云々  
 編者曰知事ノ演説夫レ斯ノ如ク第一段ハ則大地主ト小作者ノ  
 關係ニシテ大地主ノ權柄ノ高キハ即チ國家ニ盡スノ義務ノ重  
 キト恩惠ノ厚キトニ比シ又小作者ノ地主ニ對スルノ尊敬ハ即  
 チ地主ノ小作者ヲ愛撫スルノ深キ恩惠ノ價ナルニ比シ交互網  
 繆相離レサルノ關係ヲ示シ永ク國恩ニ浴シテ大地主ト小作者  
 ト長久ノ業ヲ勵ミ家運ヲ維持ノ國益ヲ増進スヘシトイフ精神  
 ニシテ實ニ佩服セサルヘカラサル所ナリトス蓋シ以上ハ民ヲ  
 愛スルハ即國ヲ興スノ本ナリトイフ所ヲ明カニシタルモノニ  
 シテ則チ一切衆生ノ引語ハ即チ其骨子トスル所ナランカ  
 第二段ハ大地主ノ強ヲ以テ小作者ノ弱ヲ憐ミ教ヲ施シ以テ化

ニ導キ即チ自カラ率先シテ銳意美鑑ヲ懸ケ彼此試作ノ得喪ヲ  
 照シテ其利ノアル所ヲ知ラシメ一人之ヲ賞シテ以テ一般之レ  
 ニ心服シ自カラ進テ德ニ入ルノ順道ヲ示シタル恰モ大人ノ小  
 兒ヲ愛育スルト一般ナル情義ノ係ル所ヲ示サレタル者ナリト  
 ス是レ之レヲ概言スレハ猶ホ小ニ施シ以テ大ヲ致シ與ヘテ而  
 シテ後之ヲ取ルトイフカ如キ一ノ方便ニ出ツルモノニシテ即  
 チ誘導勸化ノ捷徑遠大ノ近案ナリトイフヘキナリ  
 第三段以下ハ勿体ナクモ 我皇后陛下ノ深ク大御心ヲ用井サ  
 セ玉ヘテ農事ノ重且大ナルモノナル所ヲ示シ併テ佛國ヲボレ  
 オンノ農事ニ銳意ニシテ勸誘ニ妙手段ヲ設ケタル所ヲ示シ以  
 テ勸誘者ノ注意ヲ促カサレタル所ナリトス嗟乎勸誘者ノ位置



サルヘカラス之ヲ了知セサレハ到底其目的ヲ成就スル能ハサル  
ナリ乃チ性質ノ大略ヲ説カン

●植物ノ性質ヲ解シ易ク説ク話

性質トハ何ソヤトイハ、性ハモチマヘト讀ミテ多ト云フナリ  
而シテ性トハ酒トナリ飯トナリ糊トナルハ米ノ性ト言フ如キナリ  
質トハ糲ノ少キ質品位ノ良キ質虫ノ食ハサル質ノ類ナリ

●植物ノ性質ヲ米作ニ就テ説ク話

今米作ニ就テ言ハシニ土地ニ適當スルモノヲ撰ハントスルニハ  
其近邊ニテ栽培スルモノヲ十種ナリ二十種ナリ取り集メ同一ノ  
田地ニ同一ノ肥料ト同一ノ手入ニテ栽培シ以テ試験スルキハ糲  
ノ多キモノ穂ノ早ク出ル者莖許リ成長ノ稔リ宜シカラサルモノ

虫ニ罹ルモノ又實入宜ク收穫多キ者等色々ノ結果ヲ見ル可シ於  
是其中一粒モ糲ナク穂ノ至テ大ナル者ヲ撰取シテ元種トナス可  
キナリ是即其土地ニ相當スル必適ノ良種ニシテ非常ノ災害アル  
ニアラサル限リハ決シテ稔ラストイフコトナキナリ  
因ニ曰フ漫リニ他ノ新聞雜誌或ハ廣告等ヲ信シ遠方ヨリ種子  
ヲ取り寄セ唯一回ノ試験モナク之ヲ栽培スル井ハ往々失敗シ  
テ若干ノ勞費ヲ空フスルコトアリ中ニハ遠方ノモノト雖モ土地  
ニ適當スル良キ種類ナキニアラス然レモ暖國ノ種子ハ大抵晚  
稻トナリ莖葉ノミ繁リテ不充分ノモノ居多ナリ故ニ若シ他方  
ノ種類ヲ栽培セントスルニハ先ツ其土地ニ於テ適當スルモノ  
ヲ撰定シテ然ル後遠方ヨリ取り寄セタル種子ト栽培比較シ若

シ遠方ノモ以上品ニシテ土地ノモノヨリ勝ル片ハ之ヲ變更スル素ヨリ可ナリ然ルニ始メヨ此ノ王夫ナク直ク他ヲ憑ミ我土地ニ如何ナル上等品アルヤヲ吟味セス漫リニ輒々他方ノ種類ヲ信シテ之ヲ施スカ如キハ實ニ大ナル不覺言ハサル可クストイフツミ空マエニ中ニハ蓋式ノ人ナクハ難キ土地

●稻ノ質ニ糝ノ交ル者及莖ノ元部ヨリ倒ルハ者ノ話元來稻穂ノ糝ハ氣候ト土質ト肥料ト手入ト此四ツヲ以テ依テ生スルコト多キモ亦ナク亦其種ノ質ニ因テ生スルモノ少カラサルナリ蓋シ其質ノモシハ氣候不順ノ年ニ極テ多クモ少クモ又莖ノ本部ヨリ倒ルモノハ大概其米ノ横腹ニ白點アルモノ多シ此米ハ味ト佳ク又且ツ之ヲ貯藏スルハ必ズ腐蝕ニ罹ル者ナ

リ故ニ種ヲ撰スニ當リ穂ノ大ナルハ勿論一粒ニテモ糝ノナキ穂ヲ撰フノ肝要ナリ然レド但一穂ノ中ニテ穂先ハ縦ニ宜クモ糝アルモノハ種ヲ選スヘカラス何トナレハ種ノ中ノ者ハ穂先穂本トモ素ト皆兄弟ニシテ同ノ質ヲ免レザルナリ(全上)

●稻田ニテ粃種ヲ撰フ話

稻田ニテ粃種ヲ撰フニハ莖ノ色ハ青キモノヲ摘ミ取ルハ宜シラス何トナレハ莖ニ青色アルモノハ莖中ノ養分未ダ穂ニ登ル盡サス全ク成熟テ了ラサルモノナレハナリ是故ニ幾分カ青色ヲ帶フルモノアレハ根部ヨリ採取テ其儘乾燥スルヲ得策トス

但ミコノ青キ者ハ穂首ヨリ抜き取り直ニ大陽ニ乾燥スル片ハ米ニ小ビトナ生スル者ナレハ種料ハ勿論食料ニ供スルモノト

雖モ必ス莖ヲ附テ刈取り能ク燥乾シテ後穗ヲ抜キ落スヘシ

●腹切米青米白點米小粒米糝等ヲ除去スル話

總テ腹切米青米白點米小粒米糝等ヲ除去スルニハ鹽水撰ヲ使用スルニ限ル其方法ハ

生水壹斗ニ付食鹽壹貫目乃至一貫四百目位ノ割合ニテ鹽水ヲ作り(鹽ヲ先ニ入レ水ヲ後ニ入ルヘシ然ラサレハ鹽ノ溶解悪キモノナリ)

此鹽水ヲ二斗桶又ハ五斗桶ニ入レ置キ而シテ穀種ハ凡ソ一斗程入ルヘキ筈ニ五升程ヲ入レ之ヲ鹽水ノ中ニ筈ノ縁限リニ嵌メテ其穀ヲ攪拌スベシ然ルルハ全良ノ種子ハ筈ノ底ニ沈ミ欠點アル粒ハ悉ク浮ムモノナリ其浮ミタルモノハ針銅篩(灰篩)ヲ以テ掬ヒ

取り沈ミタル粒ハ筈ト共ニ曳キ揚ケ生水ヲ充分ニ注キ鹽氣ヲ洗滌シ太陽ニ乾シテ種料トナスヘシ

儲此法ニ依レハ糝ハ勿論青米腹切米等ノ欠點アルモノ少シモ混交セス所謂完全無欠ノ種子ヲ得テ之ヲ播クトキハ一粒ニテモ發生セサルモノナク悉ク良キ苗ヲ得ラルト疑ヒナシ是故ニ其種量ヲ減スルノ便アル亦夥シトス試ニ其割合ヲ計算スレハ苗一株ヲ五本トシ六尺四方即チ一步ニ六十株ニテ行ト行トノ間チ一尺トシ株ト株トチ六寸トスル割合ニテ其粒數ハ一反步即三百歩ニ九萬粒ナリ普通一升ノ粒ハ凡四萬粒位アルモノナレハ一反步ノ種粒ハ二升二合五勺ニテ澤山ナル割合ナリ又一步ニ三十六株トシテ一株三本宛植ユルトスレハ三萬二千四百粒ナリ即一升以內

ニテ是ル割合ヲ所豈其種粃ヲ減ス為利益亦大ナラズヤ(全上)

●赤米ノ除ク法  
 赤米ヲ除ク法ハ籾穂ヲ四五日間水ニ浸シ之ヲ引上ケ直チニ檢ス  
 レハ赤米ノモトハ皆外皮ニ薄黒ク現ルヲ見分ル可ク得  
 又籾ヲ浸シ四五日ヲ經ル頃少クツ葉益様ノモトニ載セテ檢ス  
 ンハ赤米ナルモトハ薄黒ク現ルヲ以テ拾ヒ除ク可ク  
 容易ナリト云々

●籾ヤ稻ヲ早稲トスル話  
 籾又稻ヲ早稲ニセシトセバ穂ノ出ルトキ穂ノ最モ早キモノニ目  
 印ヲ付シ置キ原種ヲ取ル片ハ大概ニ三日位早稲トナル云々而シ

テ此ノ如ク三ヶ年程ヲ撰ムトキ八十日位早稲トナスコ容易ナ  
 リトス

●肥料ノ成分及主要ノ話  
 凡テ肥料ニハ窒素燐酸剝篤亞斯ノ成分ヲ含ムモノニシテ各其主  
 要ナル乃チ各種ノ肥料ヲ舉テ其成分及其主要ヲ示サン

●窒素ノ質  
 青葉ノ腐シタルモノハ土壤ノ腐敗スルモノハ寄洲或ハ河  
 川ノ塵芥ハ

●右ノ肥料ハ皆窒素ノ成分ヲ含有シテ濕氣ヲ含ムモノナリ故ニ  
 凡テ植物ハ莖葉ヲ肥スコト主ルニ

●燐酸ノ質

骨粉、過燐酸石灰、魚粕、粉糠、

粉糠ハ寒中ヨリ手ヲ詰テ貯ヘ水ニ混和スルモノハ燐酸質トナ  
リテ又發酵セサル片ハ窒素質トナルモノナリ

木灰、藁灰、燒土、乾土、蒸土

右ノ肥料ハ皆燐酸ノ成分ヲ含有シテ温度ヲ含ムモノナリ故ニ  
總テ植物ノ根ニ勢力ヲ補テ實ヲ結フヲ主ル

剝篤亞斯質

畑艸ノ莖ヲ蒸燒シタルモノ、毛髮ヲ天日ニ曝シタルモノ

油粕ノ類

右ノ肥料ハ元燐酸ノ能ク出來タル片窒素ノ成分ガ發酵シ來テ  
ボツターヌヲ作ルモノナルカ故ニ總テ植物ノ莖ヲ拵ヒ根ヲ補

ヒ實ヲ結フヲ主ル之ヲ譬喻セハ猶ホ人体ノ血ノ脉絡ヲ廻ル  
カ如キモノナリ

秋田整地方

苗床ノ拵ヘ方ハ両方ヨリ手ノ中央ニ及フ程徑四ニ區分シ通ル程

ノ道ヲ明クヘシ斯クスレハ種ヲ播クニ厚薄ムヲナク意ノ如ク時

キ得ヘク且稗或ハ雜艸ノ生スルヲ拔キ去リ虫害ノ驅除等ニ便ナ

リトス

儲テ秧田ヲ營ムニハ先ヅ土塊ヲ細カニ破碎シ糞水ヲ灑キ日ニ照

シテ乾燥セシメ若シ泥土ナレハ分ニ隨テ水ヲ除去シ從テ又糞水

ヲ灑キ地ニ凸凹ナカラシムル様注意ヲ用フヘシ

而又播種スルノ前二三日ニ至レハ更ニ水ヲ注テ再ヒ耕治シ多ク

牛馬ノ踏糞若クハ青竹ノ類ヲ布散シ踏藉シテ地ニ入ラシメ田面  
 ナシテ整齊ナラシム但泥土ノ地ハ牛馬ノ踏糞等ヲ布散スルニ臨  
 テ更ニ分ニ隨テ水ヲ除去スルヲ要ス而シテ既ニ糞養ヲ施セハ田  
 面一齊ニ粃壳ヲ散布シ鋤鼻ニテ撫摩リ土ヲ相親シム此ノ如クニ  
 シテ泥土ノ地ナレハ更ニ日ニ照ラシ乾カシムルコト一日間沙地  
 ナレハ其儘水ヲ注キ翌朝ニ至リ水ノ澄清ヲ俟テ稀稠ノ異ナク一  
 齊ニ播種シ其後二三日ヲ經テ天氣ヲ見定メ日乾ヲナシ更ニ水ヲ  
 注キ藁シベヲ石油ニ蘸シ水上ニ注ク大抵百坪ニ二合許ヲ度トス  
 此ノ如ク一周間ニ一タヒ油ヲ注キ四五度ニ至レハ秧田ニ虫害ノ  
 患決シテアルヲナシ

苗代播種ノ分量

苗代へ播種スルノ量ハ大畧六尺四方即一坪ニ粃種五六合一反歩  
 ニ五升ヨリ六升ニ至ル位ヲ度トス

秧田灌水ノ分量

秧田へ灌水スヘキ水ノ分量ハ常ニ凡五分位ニ淺クシ新陳代謝ス  
 ル様ニ注意スレハ其苗大ニ強壯ナリ若シ之レニ反シ時付繁ク水  
 深ケレハ日光透射セス苗細長クシテ甚タ軟弱ナリ苗代ノ水ハ必  
 ズ淺クスヘシ

但時付餘リ疎ニ過クル片ハ其間ニ雜艸ヲ生シ易キ者ナリ斯ル  
 時ハ水ヲ落シ篩ニテ粃ヲフリカクヘシ又苗代ノ周圍ニハ一握  
 位ニ束子タル藁ヲ置キ動カサル様杭ニテ留メ置クヘシ左スレ  
 ハ粃流レスンテ宜シ



天水場灌溉ノ注意

天水掛リノ場所ニシテ水ノ尤モ拂底ナル處ハ田植ノ時水上ノ田  
 ナ引キ植付ヲナシ終レハ其田ノ水ヲ盡ク次ノ田ニ落シ次ノ植付  
 ナナシ又次ノ田ト次第ニ順々ト植付クベシ決シテ田ニ水ヲ湛フ  
 ルニ及ハス既ニ毎田乾キ上カレハ水上ノ田ヨリ順々ニ通水スレ  
 ば宜シ尤モ最初ヨリ元水ヲ貯ラ肝要ナリトス  
 若シ又早魃ニテ元水ノ盡クル恐レテハケズリ田ト安ヘシス  
 此トキハ決シテ枯稿スルニ至ラヌ而シテ二百十日頃ニ至ラハ一度  
 水ヲ通スヘシ之ヲ米取水トイフ是ニテ十分收穫アルモノナリ  
 正代肥料ノ取扱  
 肥料ハ植物ヲ養フ原素ニシテ恰モ人類ノ食物ニ於ケルカ如キモ

ノナリ故ニ肥料若シ粗悪ナレハ良作物ヲ得ル不能ナルノミナ  
 ラス肥料分ノ少ナキ者ヲ年々用テ耕作スル片ハ沃土ノ地ニ變シ  
 テ瘠土トナリ終ニ耕作スヘカラサルニ至ル故ニ肥料ノ改良ヲ謀  
 ルハ農事ノ隆盛ヲ期シ幸福ヲ進ムルノ源ナリト云モ不可ナカル  
 ヘシ左レハ肥料ノ取扱ニ付第一ニ注意スヘキハ之ヲ保貯スル場  
 所ヲ撰ムニ在リ從前我農家ノ肥料ヲ取扱フヲ見ルニ厩舎肥料ナ  
 トハ總テ庭面ニ暴露シ甚シキニ至リテハ遠ク田畑ノ岸或ハ空地  
 等ノ斜地ニ搬荷セ之ヲ堆積シ覆フニ只蕈藁ノ類ヲ以テスルノミ  
 ニシテ數ヶ月間徒ラニ雨ニ濕ホシ風ニ飛散シ日光ニ曝乾シテ空  
 ク肥料ノ効力ヲ消散スルモノアリ此厩舎肥料ノ如キハ各種ノ植  
 物ニ大抵適セサル者ナキ良肥ナレトモ斯ク取扱ノ不注意ナル様

ニテハ折角有効ノ肥料モ終ニ無効ノモノトナルヘシ是故ニ肥料ヲ保貯スルニハ総テ舍屋中ニ貯ヘ覆フニ土ヲ以テシ其肥料分ノ揮散セサル様意ヲ用フヘシ彼ノ牛馬ノ糞肥ヲ敷藁杯ト共ニ堆疊スル片ハ速ニ熱氣ヲ醸シ其容量ヲ滅亡スルハ人ノ能ク知ル處ナルガ此滅亡ヲ起ス所以ヲ問ハサルモソハ如キナリ

儲右ノ容量ヲ滅亡スル所以ヲ陳フレハ其肥料中ニ包有スル水分ガ蒸散シ去ルト同時ニ激惡ナル臭氣ヲ發スル者ナリ是レ則チ其糞肥ノ腐敗スル間ニ有効ノ肥料分ノ揮發シテ去ルニ在リ故ニ日光ニ曝シ降雨ニ遇フ片ハ堆肥中ニ含有スル肥料分ハ終ニ散逸ノ全ク無キニ至リ之ヲ施用スルモ効ナキハ明瞭ナル所ナリ依テ我農家ハ到底舊慣ノ利ナラサルヲ悟ラハ速ニ肥料ノ改良ニ注目ス

ルヲ肝要ナリトス

推肥ヲ作ル良法並解

推肥ヲ作ルニハ凡ソ三十日間程一頭ノ牛馬ニ踏マセタル藁芥ノ類ヲ蓄舎ヨリ取出シ糞小屋等ノ内ノ板壁ノ所ヘ藁ヲ立テ凡二坪位ノ見積ニテ下ニ腐肥ノ極粗キ芥交リノモノ凡五六寸程敷キ置キ其上ニ粗糠ヲ三寸程ツヽ撒布シツヽ幾重ニモ積立テ凡ソ五尺程ニ積立タル上ヲ土ニテ覆ヒ其上ヨリ水糞ヲ充分ニ灌キ地際ヨリ少シク水糞ノ流れ出ルヲ度トシ又其翌日ヨリ毎日本糞三荷位宛六週間程灌キ夫ヨリ五日目位ニテ取崩テ良トス

儲斯クスル片ハ内面ノ熱氣甚シキモ決メ蒸氣ノ發撒スルトナク格別ノ濕氣ヲ被フルコトモナク至極細末ノ能キ肥料トナル者也

因ニ曰堆肥ハ全体土地ヲ暖ムル原肥トナルモノニシテ總テノ植物ヘ施シテ無害有効ノモノナリ而シテ堆肥ハ葉ヲ腐敗セシメタルモノハ窒素質トナリ葉ヲ牛馬ノ喰フテ消化セシメタルモノハ燐酸質ノモノ等ヲ混合シタルモノナルカ故ニ自カラ適宜キヲ得タル善良ノ肥料トナリ居ルモノナリ而シテ若シ牛馬アラサルトモハ燐酸質ノ肥料ヲ作ルニ難キカト言ハル亦決シテ難キニアラサルナリ



雑話

●麥苗ノ腐敗ヲ防ク法

積雪多キ所ニ在テハ累年融雪ノ候ニ於テ間々麥苗ニ腐敗ヲ來ス事アリ之ヲ防カンニハ排水ニ若クモノナシ但又積雪ノ候ニ於テ畑ノ一面ニ木柴或ハ藁灰粉糠等ヲ布キ施ストキハ雪ノ消ヘ早クシテ是ノ腐敗ヲ來スコナシ (勸農叢誌第五號)

●煙草ノ害虫驅除實驗說

煙草ノ名産地我中魚沼郡岩澤村ニハ大崩ト稱スル名葉アリ又我倉俣村ニハ倉俣煙草ノ名産アリ而シテ未タ害虫ヲ防クノ法

ヲ講セズ否講セサルニ非ス未タ經驗ヲ積マサリシナリ然ルニ此頃彌々ニ奇法ヲ案出セリソハ畑一畝ニ對シテ青蛙(方アマガ)ヲ廿余匹位ノ割合ニ放ツナリ然ルキハ其蛙始終畑ノ四方ヲ飛ヒ廻リテ彼ノ害虫ヲ吞ミ盡スコトナリ

●作物輪換法

- 第一 稻ハ年々類ヲ替テ作ル可トス
- 第二 大麥ハ一年ヲ隔テ、作ル可シ毎年作ルナラズハ類ヲ替ラベシ
- 第三 粟ハ五六年玉蜀黍ハ三四年ヲ嫌フ可シ

第四 大小豆ハ一年ヲ嫌フヘシ但薄地ハ三年

第五 陸穂雲苔胡麻ノ如キハ四五年等ハ三年ヲ嫌フベシ

第六 木綿ハ芋大根等ノ跡地ヲ嫌フ

第七 蘿蔔甘蔗ハ舊地ヲ嫌ハス但シ雲苔ヲ作リタル跡一年ヲ嫌フ

第八 大麥ノ跡ハ粟稗胡麻尤モ好シ

第九 芋ノ跡ハ陸稻稗夕顏藍等好シ

第十 雲苔蚕豆ノ跡ハ粟稗好シ

第十一 粟稗胡麻ノ跡ハ大小豆好シ

第十二 大小豆ノ跡ハ大麥小麥尤モ好シ

第十三 新開地ニハ蕎麥大麥開墾地ニハ薯類等好シ

第十四 木綿ノ跡ハ大小麥大小豆ノ跡ハ大麥小麥ナド尤モ好シトス

第十五 胡麻ノ跡ハ大根好シ

採種用糞ノ撰法及採種法

種子ヲ取リ可キ糞ヲ撰定スルニハ心止メ

ノ際本畑ニ就キ尤モ葉ノ形狀正シクシテ

葉ハ密ニ生シ無病ニシテ肥大ニ過キス枝

骨多ク其枝骨ハ對照シテ花ノ多ク咲ク可

キモノヲ撰ミテ數莖同日ニ開花スヘキヲ

撰定シ置クヘシ此ノ如クシテ一兩日ヲ經

過セバ漸々開花スルモノナリ又初日ニ開

キシ花ヨリ三日目ニ開キ花ヲ摘ミ去リ第

四日目ニ開キシ花實ヲ保存セシメ其他ノ

蕾及ヒ冗芽ハ悉ク摘去スヘシ且ツ每莖開

花セシヨリ落花ニ至ル迄ノ間ニ其二齊ナ

ラサルモノアルカ又ハ採種用豫定シタル

糞ニアリテ病ノ發生セシキハ速カニ拔キ

去ルコト勿論ナリ又採種用每畦ノ距離ハ少

ナルモ五間以上トシ又種糞ノ外ハ決シテ

花ヲ咲カシム可カラス何トナレハ蝶蛾或

ハ風等ノ媒介ニヨリ他ニ花粉ヲ移シ爲メ

ニ完全ナル種子ヲ與ヘサルナリ而シテ愈々

採種用ト撰定シタル後葉成熟スレバ下部

ヨリ漸々摘採シ莖ノ上部ニ至リテ葉五六

枚ヲ存シ種子ノ營養ニ供スヘシ

此ノ如クスルキハ除虫容易ニシテ好シ然

レモ糞ノ子房ハ螟虫ノ食害甚シキ者ナレ

ハ毎朝其畑ヲ巡回シテ驅出ハ怠ラサルヤ

ウスルコト肝要ナリ若シ誤リテ一ノ子房ニ

食害ヲ受ケシムルコトアルキハ直ニ之ヲ

摘ミ去リ害虫ノ他房ニ及フヲ防ク可シ

此ノ如クセハ種子ノ成熟整一シテ尤モ好

シ若シ成熟ニ遲速アルカ又ハ子房ニ小形

ナルモノアルカ或ハ病害等ノ兆候アルキ

ハ皆ナ摘去ル可キナリ

而シテ莖健全ニシテ子房ノ大ナルヲ得ル



去ル五日時恰モ壬辰ノ秋八月既望ニ方リ編者獨リ庭園松樹ノ下ニ低徊シテ月ヲ賞シ  
 豊ヲ歌フ少焉アリテ客來リ談偶々本誌發行ノ事ニ及フ客曰本誌ニ掲クルニ究竟ノ者  
 アリ之ヲ登載セヨト言了ルヤ忽焉トシ去リ復々飄然トシ來リ稿ヲ出シテ編者ニ示ス  
 編者之ヲ閱スレバ豈圖ランヤ凶荒植物檢査ノ成績ナリ是ニ於テ客ニ謂テ曰本誌ハ寔  
 ニ微々タル一雜誌ナリ而シテ擇ム所最近ノ者ニ過キス然レモ本郡有志農談會ノ發行  
 ニシテ苟モ實業家ヲ以テ任スル會員諸氏及農事改良熱心家諸氏ノ肺肝ヨリ出ツル所  
 ノ談論ヲ掲クルモノナリ  
 其談論ヤ肅々然トシテ聽クベク欣々然トシテ喜フヘキモノ又淡々然ト水ノ如キモノ  
 ナキニアラスト雖モ兎モ角モ杯ヲ舉テ祝サ、ルヘカラサルナリ其爰ニ祝スヘキ賀ス  
 ヘキノ者ニ對シテ此ノ如キ最モ嫌ハシキ最モ忌ハシキモノヲ掲クルト甚々不祥ト言  
 ハサルヲ得ンヤ君之ヲ收メテ復々言フ勿レト客勃然トシテ色ヲナシ從容トシテ襟ヲ

正シ危坐シテ曰嗟乎編者ノ言過マレリ請フ之ヲ説カン夫レ盛者必衰ハ古今ノ通義集  
 散去來ハ處世ノ態勢豫メスルモノハ馳シ否サルモノハ躡キ勤儉ハ榮ヘ矯奢ハ衰ヘ今  
 日ノ奢侈明日ヲ待タス人其勢ニ就クハ水ノ下キニ就クカ如ク盛ナルモ集リ衰ルモ  
 ハ散シ劣者優者ニ制セラル危イ哉嗟乎不虞ノ備ナクシハアルヘカラズ不虞ノ備ヤ子  
 孫長久ノ基闕ニ處シテ急ヲ計リ微積テ大ヲナスハ不羈特立ノ基ナリ不羈特立ノ基ヲ  
 固メ屹然トシテ立テ泰然トシテ處シ凶荒來ルモ憂ラルトナク災害到ルモ悲ムトナク  
 産ハ益々増殖シテ之ヲ收ムルモ禁スルトナク之ヲ用フルモ竭クルコトナキニ至テハ  
 眞ニ農家者ノ無盡藏トイフヘキナリ殊ニ況ンヤ並川本郡長頃者郡下ニ勤勉貯蓄ノ事  
 チ諭示シテ凶荒未タ來ラザルノ今日ニ於テ計ル可シト勸誘セラル、ノ時ニ於テオヤ  
 何ノ不祥カ之レアラシヤ嗟乎却テ慶事トイフヘシト編者謹聽感歎ノ外ナク筆ヲ援テ  
 之ヲ掲ク各位幸ニ諒焉

●並河中魚沼郡長諭示

勤勉貯蓄ノ義ハ豫テ其節ノ獎勵モ之レアリ殊ニ本縣懇篤諄諭スル所アリテ追々實踐

ナル者アルニ至ル而シテ我郡ヲ顧レハ適々實行スルモノアリト雖モ未ダ進メテ一般ニ及ハサル狀況ナリ豈遺憾ナカラザランヤ  
抑モ勤勉貯蓄ノ事タルヤ畜ニ貨財ヲ儉用シテ不虞ニ備フルノミナラス家ヲ富マシ産ヲ興シ以テ子孫ニ福スルニ基キシテ人世一日モ缺ク可カラサル重大ノ義務タリ而シテ之レヲ行ハントス種々ノ方法アリト雖モ其要旨トスル所ハ先ツ平素ノ勞働ヲ加ヘ無用ノ時間ト無用ノ浪費等之レヲ裁省シテ能ク難ニ耐ヘ能ク艱ヲ忍ヒ勻ヲ積ミ以テ江河ヲ成シ塵ヲ累チ以テ峻極ニ崇シトイフノ旨趣ニシテ難ハ則チ難ト雖モ精神一到ナシテ爲シ得ラレサル義ニ無之勉メテ勉メサル可カラサルノ要務タリ今我郡ノ通勢ヲ觀察スルニ本年ノ如キハ氣候順ニ歸スルト商況氣ヲ興ストニ由ルガ稲田ハ盈々トシテ妖野ニ熟シ物産ハ好綾縮布製絲ノ如キ陸續トシテ輸出スルノ光景ヲ呈シ近年稀ナル豐饒ノ年ナリトイフ而テ人氣振マシ所尙ホ興ラントスルモノアリテ存スルナリ豈慶賀セサルヘケンヤ  
夫レ然リ而シテ天地ハ盈虛シ時ト消息ストイフ是時ニ方リ豐去リ凶來ル盈缺循環ノ

理ヲ慮リ其患未ダ至ラサルノ日ニ於テ豫メ之レヲ圖リ不虞ニ備フヘキハ尤モ勉ム可キ所ニシテ本年ノ如キ豐富ナルノ日ニ於テ之ヲ計ルハ實ニ時ノ得タルモノニシテ甚シキ困難ヲ感ホスシテ行ハルヘキハ亦疑ハサル所ナリ  
由之希クハ今ヨリ進テ各村適宜ノ方法ヲ設ケ蓄フテ應分ノ穀財ヲ貯蓄シ以テ不虞ニ備ヘ子孫ニ福スルノ基ヲ開キ凶荒且ニ到ルモ之レヲ患ヘス災厄夕ニ到ルモ痛痒ヲ感ホス一家晏如一村歡謳苟クモ親子離散途ニ彷徨シテ飢ニ叫ヒ餓ヲ訴フルカ如キ慘狀ヲ呈スナカラシムテ相勉候様懇篤勸誘ス可シ此旨諭示候也

明治廿五年十月現在會員姓名

●名譽會員

- 岩船郡長 小林 卷藏
- 馬場村 太田 培稼
- 古志郡 山崎 三太郎
- 王内村

●特別會員

- 中魚沼 郡長 並 水河 正一
- 十日町村 根津 政次郎
- 吉田村 酒井 市三郎

田村澤 井ノ川 平吉

- 井ノ川 平八郎
- 吉樂 宗二郎
- 田澤 井富 井三重郎

特別賛助會員

十日町村 蕪木八郎右衛門

根津市郎治

中條村 冰野

岡田 龍松

杉本 周徳

眞入村 平澤長一郎

吉田村 酒井幡一郎

外丸村 津端 守眞

上郷村 保坂 虎松

谷内村 内山 虎太郎

中深見村 中澤 久四郎

仙田村 増田 弁次郎

三好村 水落 八郎

上野村 星名 佐藤治

清水 莊太

岩澤村 關口 清左衛門

谷内 幸藏

高橋吉郎右衛門

高橋助太郎

山田 七藏

小島 庄兵衛

渡邊 佐長治

佐藤 熊藏

佐藤 榮藏

●通常賛助會員

十日町村 根津五郎右衛門

鳴田 善太郎

關口 愛吉

川口 多吉

庭野 松太郎

庭野 龜吉

中條村 大熊 平太郎

樋口 銀藏

星名 作松

樋口 政吉

古澤 熊三郎

阿部 榮藏

岡田 政徳

中條村 山口 市藏

大島 彌三郎

星名 謙吉

樋口 興三郎

星名 初藏

大熊 茂七

岩田 茂平太

庭野 文太郎

樋口 彦助

田村 武七

佐藤 盛平

樋口 幸市

岡田 良之助

中條村 曾根 由太郎

須藤 文吉

須藤 善次郎

岩田 源吉

岩田 鉄藏

岡田 長五郎

大熊 仙太郎

星名 良吉

大井田村 池田 喜四郎

眞入村 福原 吉郎治

藤卷 政太郎

羽鳥 多之助

藤卷 初之助

眞入村 藤卷 伊三郎

田中 悦平

稻餅 恒吉

稻餅 平八

星野 甚太郎

丸山 熊吉

渡邊 傳次郎

渡邊 忠吉郎

佐藤 五吉

佐藤 常吉

渡部 譽三郎

渡部 幸之助

保科 龍三郎



眞人村	渡部 和助	吉田村	馬場 久助	眞野村	古澤 彦市郎
麴口 重太郎	春泊 勘三郎	眞田村	兒玉 權重郎	寺田村	中島 左衛門
麴口 喜三郎	春泊 文次藏	眞田村	酒井 儀平治	宮野原村	釜澤 道賢
梶村 中三	眞田村	眞田村	小海 長七郎	上郷村	清冰 常藏
吉田村	大井 清治	眞田村	保坂 重藏	谷内村	中島 增次郎
春田 定治郎	眞田村	眞田村	保坂 重藏	赤崎村	島田 喜吉藏
馬場 祐之助	眞田村	眞田村	保坂 重藏	赤崎村	保坂 清藏
岩田 眞吉	眞田村	眞田村	保坂 重藏	赤崎村	保坂 清藏
柳 勝藏	眞田村	眞田村	保坂 重藏	赤崎村	保坂 清藏
柳 權三郎	眞田村	眞田村	保坂 重藏	赤崎村	保坂 清藏
馬場 猶次郎	眞田村	眞田村	保坂 重藏	赤崎村	保坂 清藏
關口 汝平	眞田村	眞田村	保坂 重藏	赤崎村	保坂 清藏
柳 權一郎	眞田村	眞田村	保坂 重藏	赤崎村	保坂 清藏
酒井 省一郎	眞田村	眞田村	保坂 重藏	赤崎村	保坂 清藏

大倉 大作	丸山 福藏	六箇村	後山 慎造
大倉 熊治	金澤 新清	河内村	福崎 孫三郎
瀧澤 林重郎	上村 定藏	川治村	福崎 小重郎
富澤 八郎	上村 彦吉	河内村	南雲 源太郎
桑原 泰吉	富井 喜三郎	河内村	德永 助太郎
下船渡村	今泉村	河内村	南雲 周藏
風卷 九八郎	志賀 武八	河内村	岡村 重郎
村山 雅太郎	井口 熊藏	川治村	松澤 芳松
根津 弁次郎	村山 清稔	川治村	村山 榮造
太田 培稼	宮澤 四郎	川治村	小林 國太郎
富井 邦彦	生村 亮	川治村	遠田 武八
富井 久作	宮澤 榮吉	川治村	遠田 武八
富井 林四郎	德永 周太郎	川治村	遠田 武八
丸山 久孝	德永 周太郎	川治村	遠田 武八

仙田村

押木 良平  
 小林 忠太郎  
 増田 定助  
 高橋 喜平  
 高野 佐太郎  
 半田 善四郎  
 齊木 八十吉  
 南雲 周藏  
 登坂 藤平  
 登坂 善次  
 田中 政治  
 水落 八郎  
 三好村  
 村山 俊之丞

三好村

堀熊 松藏  
 村山 熊松  
 近藤 泰吉  
 星野 伏太郎  
 村山 福松  
 小海 富六  
 佐藤 愿雄  
 長谷川 義發  
 村山 藤九郎  
 村山 泰助  
 山田 太二郎  
 中町 元吉  
 小川 太一郎

下組村

長谷川 貞之助  
 關口 次郎右衛門  
 小林 由松  
 大淵 文英  
 村山 源藏  
 小川 助藏  
 小川 榮藏  
 藤卷 卯助  
 山田 安之助  
 村山 房太郎  
 佐藤 國吉  
 長谷川 清松  
 山田 林藏

下組村

關口 茂左衛門  
 山田 喜代吉  
 藤田 駒藏  
 藤田 貞之助  
 藤田 藤左衛門  
 米山 美代吉  
 中町 三郎右衛門  
 小杉 石松  
 高橋 虎藏  
 長谷川 丑之丞  
 山田 金右衛門  
 山田 梅太郎  
 井川 利兵衛

田澤村

渡部 利喜藏  
 廣田 林之丞  
 通常會員  
 十日町村 藤木 八郎右衛門

十日町村 根津五郎右衛門

大井田村 池田 喜四郎  
 小宮山 孝太郎  
 二瓶 丑太郎  
 大海 俊造  
 小川 虎造  
 中條村 繩口 彦助  
 岩田 茂平太  
 大島 空太郎  
 古澤 熊三郎  
 岩田 鍊藏  
 岩田 源吉  
 高橋 市四郎

中條村	堀口良藏	中條村	堀川萬之助	下組村	佐藤愿雄
	佐藤次七		水落磯次郎		小川兼吉
	岡田龍松		中林萬五郎		中町元吉
	堀口治三郎		岩田兼松	岩澤村	高橋吉郎右衛門
	大熊義作		和田熊藏		關口清左衛門
	池田徳次郎		阿部久作		田中奥次郎
	須藤多藤治		田村常助		渡邊丈吉
	藤木彦藏		岩田與之吉		佐藤彌三治
	岡田仁作		岩田熊太郎		大淵久太郎
	藤木助藏	三好村	星野佐太郎		山田七郎右衛門
	田村安太郎		堀熊松藏	大井田	佐藤榮藏
	小松禎治		近藤勘左衛門		小嶋庄兵衛
	福島安藏	下組村	小川太一郎		渡邊佐長治

岩澤村	太淵助太郎	橋村	丸山源吉	上野村	星名茂
眞人村	渡邊忠吉郎	仙田村	登坂廣吉	中野村	星名桂太郎
	佐藤常吉		川崎勝太郎		高橋儀八郎
	平澤長之	上野村	押木良平		高橋孝左衛門
	渡邊和助		丸山源司		羽鳥卯之松
	渡部熊藏		星名佐藤治		高橋準三郎
	藤卷伊三郎		星名喜三治		羽鳥福太郎
	堀口覺太郎		押木禮三		中村重吉
	平澤熊市郎		押木喜雄吉	中野村	中村勇松
橋村	小幡正朔		清水莊太		星名啓吉
	丸山熊吉		上村房藏		羽鳥安太郎
	小幡藤藏		水品彦市		櫃間九平治
	野澤錢平		水海八郎	千手町村	田邊謙次郎

千手町村 南雲 亥三太

半藤 逸我

敷藤 重吉

吉田村 酒井 幡一郎

酒井 和三郎

酒井 藏太

柳 權三郎

酒井 儀平太

柳 儀一郎

關口 龜吉

柳 勝藏

春日 友七

兒玉 權重郎

吉田村

兒玉 市太郎

酒井 藤太郎

馬場 祐之助

岩田 貞吉

春日 賢次郎

春日 又市郎

春日 米吉

丸山 庄次郎

小山 傳吉

水落 茂八

佐藤 要次郎

嶋田 幾太郎

嶋田 五郎吉

鏡島村

齊木 增藏

宮内 常五郎

水落 忠次郎

柳 貞次郎

茂木 廣吉

野上 國之助

野上 定六

尾身 善四郎

尾身 勝太郎

江村 喜十郎

尾身 喜源太

金澤 道賢

古澤 治作

貝野村

藤田 常次郎

古澤 彦一郎

中嶋 奎左衛門

高橋 煤藏

瀧澤 善四郎

清水 伊次郎

津端 順造

高波 寅太郎

嶋田 熊吉

久保田 直喜

中澤 順造

久保田 龜造

宮野原村

中島 文吉

宮野原村

中島 繁松

半戸 馬藏

森口 恒太郎

島田 才次郎

中嶋 與十郎

中嶋 增次郎

麻績 收太

橋野 佐平

涌井 邦正

江村 喜平

保坂 兎良吉

中島 善吉

中島 儀平

上郷村

中島 曾四郎

江村 定吉

金子 勇

内山 定一郎

繩口 才治郎

内山 熊藏

關谷 太七

内山 謙吉

保坂 信雅

大口 治平

桑原 義憲

桑原 桑藏

桑原 慶次郎

上郷村

赤崎村

秋成村

秋成村 桑原源次郎

桑原 懋治

桑原 有終

岡村 慎太郎

桑原 重正

中深見村 中澤松三郎

瀧澤 長十郎

寺田 彦三郎

桑原 銀右衛門

志賀 重七郎

櫻澤 源四郎

富澤 一寛

桑原 政五郎

下船渡村 根津弁次郎

村山 雅太郎

江村 良吉

中澤 秀三郎

宮澤 定太郎

高橋 菊松

倉俣村 岡村 倉松

高橋 林右衛門

鈴木 熊吉

田澤村 瀧澤 保一

渡邊 利喜藏

富井 與作

廣田 林之重

馬場村 上村 定藏

金澤 新清

太田 培稼

上村 彦吉

富井 邦彦

富井 林四郎

富井 久作

丸山 久孝

福島 九造

富井 清三郎

丸山 喜三郎

丸山 福藏

今泉村 市村 信太郎

今泉村 金澤 常七

村山 稔

志賀 武八

桑原 鷹之助

山崎 丑之助

井口 平作

堀口 庄八

六箇村 桑原 熊太郎

俵山 虎忠

徳永 大太郎

長津 音吉

遠田 武八

松澤 直吉

遠田 又右衛門

關口 音七

關谷 榮太郎

松澤 甚八郎

長津 三吉

高橋 清二郎

岡村 清藏

岡村 善次郎

小林 茂八

中魚沼郡有志農談

一徹收一關一往復シタリ郵金

秋成村

桑原源次郎  
桑原 惟治  
桑 原有終  
岡村慎太郎  
桑原 重正  
中深見村  
中深松三郎  
瀧澤長十郎  
中村彦三郎  
桑原銀右衛門  
志賀重七郎  
櫻澤源四郎  
富澤 寛  
桑原政五郎

下船渡村

根津弁次郎  
村山雅太郎  
江村 良吉  
中澤秀三郎  
宮澤定太郎  
高橋 菊松  
倉俣村  
岡村 倉松  
高橋林右衛門  
鈴木 熊吉  
田澤村  
瀧澤 保一  
渡邊 利喜藏  
富井 與作  
廣田林之重

馬場村

上村 定藏  
金澤 新清  
太田 培稼  
上村 彦吉  
富井 邦彦  
富井林四郎  
富井 久作  
丸山 久孝  
福島 九造  
富井清三郎  
丸山 喜三郎  
丸山 福藏  
今泉村  
市村信太郎

今泉村

金澤 常七  
村山 稔  
志賀 武八  
桑原 鷹之助  
山崎 丑之助  
井口 平作  
堀口 庄八  
桑原熊太郎

俵山 虎忠

德永 大太郎  
長津 音吉  
遠田 武八  
松澤 直吉  
遠田又有衛門  
關口 音七  
關谷 榮太郎

松澤 甚八郎

長津 三吉  
高橋 清二郎  
岡村 清藏  
岡村 善次郎  
小林 茂八

中魚沼郡有...

...

ハ五日間内ニ督促状ヲ發シ尙ホ納メサ  
ルキハ通常會ニ報告ノ處分ヲナスヘシ  
第七條 地方幹事ハ會費ヲ徵收シタルキ  
ハ徵收簿ニ記入シ檢印ノ上送納書ヲ添  
ヘ取納タル金員ヲ主幹ヘ送納スヘシ

第十條 地方幹事ハ前條ノ徵收切符ヲ受  
ケタルキハ之ヲ各自ニ配布シテ徵收ス  
ヘシ  
第十條 會員若シ拂込ノ期限内ニ他行ス  
ルキハ代納者ヲ立テ其旨地方幹事ヘ届  
ケ置クヘシ

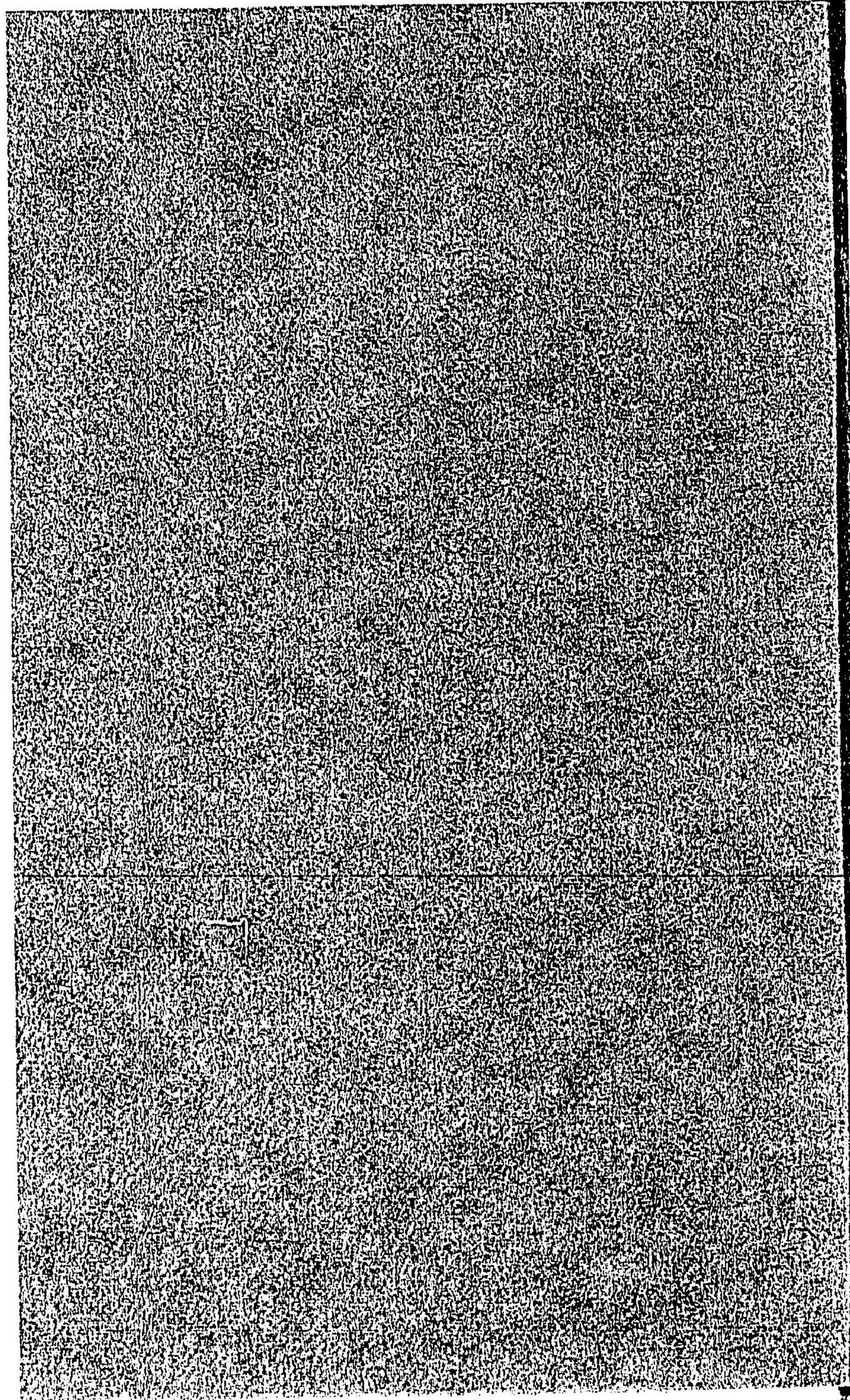
明治廿五年十月廿九日印刷  
明治廿五年十一月十日出版

新瀉縣中沼魚郡十日町村第八百廿一番地  
中沼魚郡有志農談會

代表者 並 河

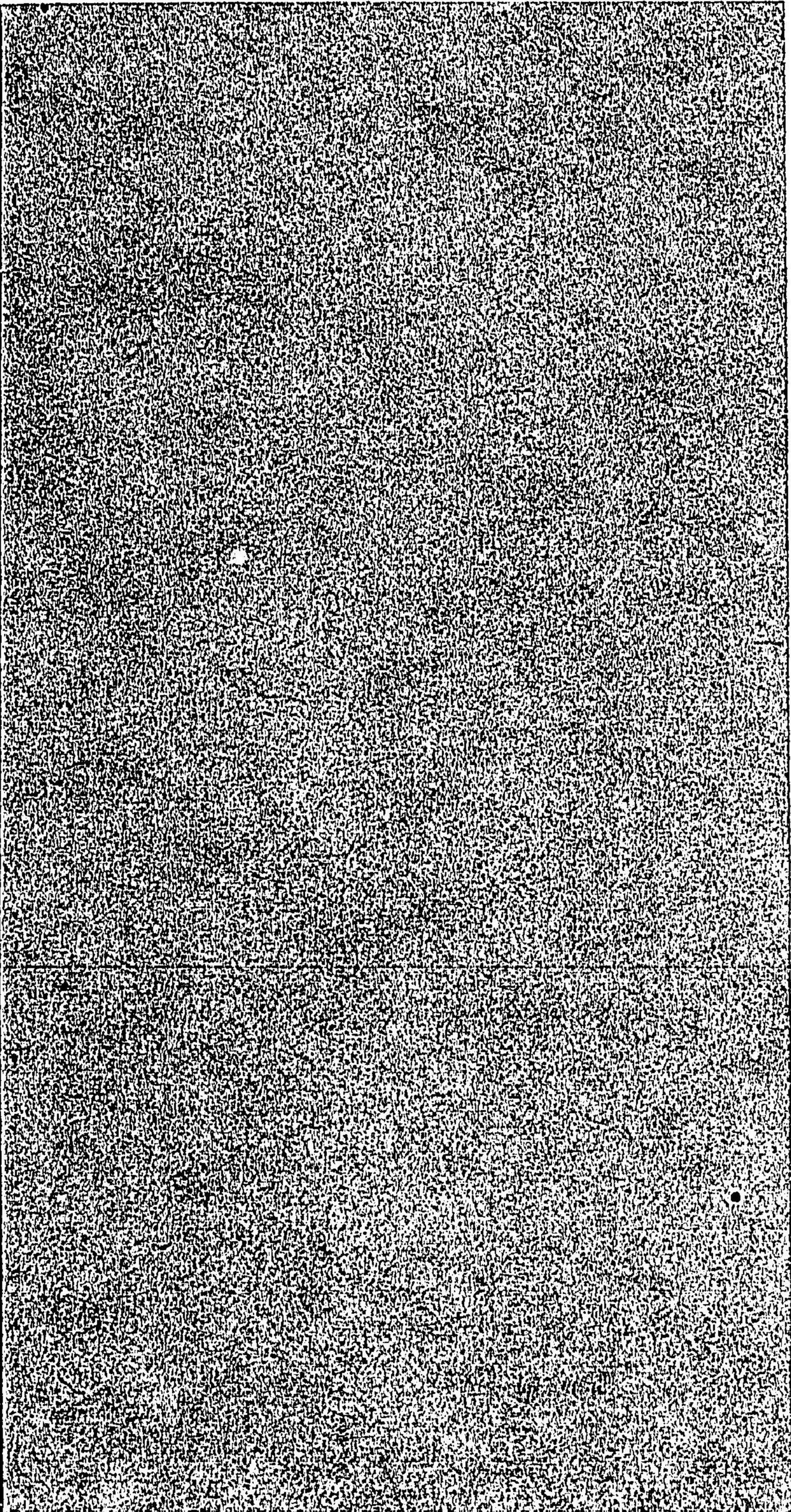
印刷者

新瀉縣北魚沼郡小千谷町第四百八十二番地  
杉山徳造





[Redacted]



特51

406

勸農一助

1

国立国会図書館

061632-000-8

特51-406

勸農一助 第1

中魚沼郡有志農談会

M25

CCA-0262

